

EmNido Report No. 0001 (2020.7.6)

# マハティール 92歳の挑戦

本レポート作成にあたり可能な限り事実関係の確認を行ったが誤記の可能性があることをお許しいただきたい。

マハティール・ビン・モハメド（以下敬称略）はマレーシアの繁栄を築き上げた中心人物だった。第4代首相として1981年から22年間、政治のトップにあった。“開発独裁”と言われてもしかたないような剛腕でマレーシアの発展への道を指揮し続けた。

そのマハティールが首相を退任してから15年たった2018年、92歳という高齢で首相への復帰を求めて総選挙に立候補した。その時パートナーとして力を借りたのは首相時代に罷免追放したアンワル・イブラヒムだった。

2018年総選挙で首相に返り咲き、初めての政権交代を実現させた。そして勝負をかけた首相辞任。マハティールとアンワルという二人の人物を軸に事実をまとめてみた。

## 1. マハティール・ビン・モハメド第4代マレーシア首相の経歴

### (1) 生い立ち

後に22年間という長期にわたりマレーシアの首相を務めたマハティール・ビン・モハメド(Mahathir bin Mohamad)は1925年7月10日にイギリス領マラヤのクダ州アロースター(\*)で生まれた。

父はインドのケララ州から移住してきたイスラム教徒でアロースターに出来た最初の英語学校の校長だった。その家の9人兄弟の末っ子のマレー人として生まれた。

マレーシアの名門大学「エドワード7世医科大学(King Edward VII College of Medicine)」(\*)を1953年に卒業し、医師の資格を取得。アロースターの総合病院で勤務した後、1957年に辞職し、同地でマレー人初の医院を開業、貧困層への診療に取り組んだ。

そして医師として活動するかたわら1946年の創立当時から関わる「統一マレー国民組織(UMNO: United Malays National Organization)」(\*)の政治活動にも従事していた。

### (2) 政治家としての始まり

国家「マレーシア」が成立した翌年の1964年4月25日の総選挙で出身地クダ州から立候補し当選。38歳で下院議員となった。

翌1965年には早くも当時の与党であるUMNOの最高評議会の委員に選出されている。

しかしながら1969年5月10日の総選挙では「全マレーシア・イスラム党(PAS)」(\*)のユースフ・ラーワーと争い議席を失った。マハティールはこの選挙では、華人層から強い批判を浴びていた。

この総選挙直後に発生した「5・13事件」(\*)をきっかけに、マハティールのトUNKU・アブドゥル・ラーマン(Tunku Abdul Rahman)首相批判が強まる。首相に送った批判の信書が6月には新聞で公開され、後

\*: イギリス領マラヤ(British Malaya)は18~20世紀にマレー半島とシンガポール島に存在した海峡植民地とその他の地域からなるイギリス支配下の連邦。クダ州(Kedah)(又はケダ集)の州都がアロースター(Alor Setar)で、現在のマレーシア北部、タイとの国境から45km付近に位置する。

\*: 「エドワード7世医科大学」は1905年に創設された名門大学。後にシンガポール校が「シンガポール大学」となり、クアラルンプール校が「マラヤ大学」の名称を継承した。

「統一マレー国民組織」(UMNO) 第二次世界大戦終了直後に再びイギリスの植民地となった1945年に創設された。マレーシアの前身であるマラヤ連邦時代から2018年総選挙まで一貫して首相を送り出してきた政党。

「全マレーシア・イスラム党」(PAS) 歴史あるイスラム政党。「マレーシア・イスラム国家」の成立と党是としており、マレー半島東海岸の保守的な地域を中心に支持者は多い。

\*: 1969年5月13日にマレーシア史上最悪の民族衝突事件「5・13事件」が勃発し死者196人、負傷者439人の犠牲者が出た。

に第2代首相となるアブドゥル・ラザク (Abdul Razak Hussein) 副首相が UMNO の最高評議会を招集し、マハティールを UMNO から除名した。

このアブドゥル・ラザク副首相の長男が後にマハティールの政敵となるナジブ・ラザク第6代首相である。

### (3) 首相への階段

UMNO を除名されてから数年が経過した 1972 年、アブドゥル・ラザクと和解し UMNO への復帰を果たす。アブドゥル・ラザクはこの2年前にラーマンの後継者として首相に就任していた。そして、マハティールはマレーシア食品工業公社会長に就任し上院議員に任命された。

1974 年には、上院議員を辞職して総選挙に立候補。当選して下院議員に復帰した。そして、9月5日の組閣人事では UMNO 内序列3番目と言われる教育相に任命された。

1976 年、アブドゥル・ラザク首相が病氣療養先のロンドンで急死した。副首相であるフセイン・オン (Hussein Onn) が第3代首相に就任しマハティールは副首相となった。

1981年5月15日、フンセン・オン首相が健康問題を理由に辞職を発表。6月に開催された UMNO 全国大会でマハティールが無投票で UMNO 総裁に選出された。

そして、1981年7月16日マハティールは第4代首相に就任し政治のトップに上り詰めた。それから2003年10月31日までの22年間という長期にわたり首相としてマレーシアを統治することになった。マハティールは王族出身以外で初めて首相になった人物だった。

## 2. マハティール元首相のナジブ首相との対決

### (1) ナジブ・ラザクとの出会い

マハティールは22年間の首相としての仕事に区切りがついたとして、2003年に第4代首相を退任した。78歳だった。

後継者には副首相のアブドラ・バダウィ (Abdullah Ahmad Badawi) を指名した。アブドラは「ミスター・クリーン」と呼ばれたほどの人物で汚職対策の看板だった。

しかしながら、2008年の総選挙で UMNO が議席数を減らしたとき、マハティールはアブドラ首相の責任を追究し辞任を求めた。アブドラは2009年に首相を退任。その後任として2009年6月4日、第6代首相の座に就いたのが、その後マハティールが批判し続けることになるナジブ・ラザク (Najib Razak) だった。この頃二人の関係は悪くなかった。

ナジブ・ラザク首相は、アブドゥル・ラザク第2代首相の長男で、フンセン・オン第3代首相の甥という血筋を持つ。

アブドラ・バダウィ首相時代に副首相を務めた経験もあり、UMNO 総裁となっていた。

#### 【マレーシアの歴代首相と在任期間】

1. トゥンク・アブドゥル・ラーマン (1963.9 - 1970.9)
2. アブドゥル・ラザク (1970.9 - 1976.1)
3. フセイン・オン (1976.1 - 1981.7)
4. マハティール・ビン・モハマド (1981.7 - 2003.10)
5. アブドラ・バダウィ (2003.10 - 2009.4)
6. ナジブ・ラザク (2009.4 - 2018.5)
7. マハティール・ビン・モハマド (2018.5 - 2020.2)
8. ムヒディン・ヤシン (2020.3.1 - )

## (2) ナジブ首相批判の高まり

2015年7月、米ウォール・ストリート・ジャーナル(WSJ)などが、マレーシアの政府系ファンド「1MDB」によるナジブ首相の個人口座への7億ドルの振込疑惑を報じた。このあと、ナジブ首相を追い込んでいく汚職疑惑のはじまりだった。

マハティール元首相のナジブ首相批判はその報道以前からすでに行われていた。報道の数か月前にはすでに、自身のブログでナジブ首相の退陣を求めている。「相次ぐスキャンダルや公金の浪費で国民の信頼を失った。このままナジブが率いれば次期総選挙で与党は敗北する」と語っていた。

WSJの疑惑報道が流れた直後の事だった。ナジブ首相に批判的だったムヒディン・ヤシン(Muhyiddin Yassin)副首相他数名の閣僚が更迭された。ムヒディンはナジブ首相就任と同時に副首相に就任した側近だが、不透明な資金疑惑のある首相への批判を公言してきていた。このムヒディンが将来首相になる人物だ。

国民のナジブ首相批判の声は高まり、その年の8月29日には首都クアラルンプールで首相退陣を求める大規模なデモが行われた。デモには「Bersih」(\*) (マレー語で「クリーン」)と書かれた黄色のシャツを着たおよそ10万人が参加。マハティール元首相もデモに参加し、ナジブ首相の退陣を求める演説を行った。

このマハティールの演説を巡って、11月にはマレーシア警察当局がマハティール氏を名誉棄損容疑で事情聴取を実施するという事態も起こった。

## (3) マハティールの決断

マハティールのナジブ首相批判は続き、2016年2月にはマハティールが1946年の創立以来関わってきた所属政党UMNO(\*)から離党した。

当初、ナジブ首相を批判しても党は批判しないという立場をとっていたが、UMNOはすでにナジブの汚職を支援する嘆かわしい状態の党になってしまったとして離党を決断した。

同年3月23日、マハティールはナジブ首相を「汚職に絡む職権乱用があった」としてクアラルンプール高等裁判所に提訴した。

ナジブ首相は疑惑を否定し続けてきたが、2018年5月の政権交代の後の同年7月3日、ナジブは自宅で逮捕され翌日には起訴された。

## (4) 政権交代に向けた挑戦

2016年2月、UMNOを離党したマハティール元首相は、新党「マレーシア統一プリブミ党(PPBM)」(\*)を結成した。この時マハティールはすでに90歳になっていた。

高齢のマハティールは2016年8月には胸部の感染症で入院したことがある。もともと心臓に持病のあったマハティールは過去に2度のバイパス手術を受けていたという。

2016年12月、マハティールは「人民正義党(PKR)」(\*)、「民主行動党(DAP)」(\*)、「国民信任党(AMANAH)」(\*)の3党で結成している当時の野党連合である「希望同盟(PH)」(\*)と選挙協力の覚書を交わした。そして翌年7月には、「希望同盟」の議長となった。

\*: 2007年から始まった「クリーンな選挙」を求める市民運動。「bersih(ブルシイ)」はマレー語で「クリーン」という意味。2015年には「bersih 4.0」として8月29日から30日の2日間、首都クアラルンプールで大規模なデモが行われた。黄色が運動のシンボルカラー。

### 「マレーシア統一プリブミ党」(PPBM)

UMNOを離脱したマハティール元首相が結成した政党。2018年総選挙ではこの政党から立候補し、首相に再任。マレーシア史上初めての政権交代を実現した。

### 「人民正義党」(PKR)

アンワルが獄中にあった頃に妻のワン・アジザが結成した新党が前身。非マレー人を中心に強い支持を得ている。後にアンワルが党首となる。

### 「民主行動党」(DAP)

華人やインド人などが支持層の中心。中道左派で社会民主主義を標榜する。

### 「国民信任党」(AMANAH)

改革派が支持するイスラム政党のひとつ。党内対立によりPASより離党したグループが2015年に設立した。

### 「希望同盟」(PH)

2008年にPAS、DAP、PKRが野党連合として設立した「人民連盟(PR)」が前身。2015年に「希望同盟(PH)」となり、2018年総選挙時にはPASが離脱し、新しくマハティールが設立したPPBMが参加し構成されている。2018年総選挙で勝利後は、与党連合となった。

2017年12月、マハティールは翌年の総選挙への立候補を表明した。これに呼応して翌年1月には「希望同盟 (PH)」がマハティールを首相候補として支持することを決めた。

マハティールは、92歳という高齢で、再びマレーシアの首相の座に挑戦する立候補だった。

**(5) 2018 総選挙で勝利**

ナジブ政権による議会解散を受け、第14回下院議員選挙は2018年4月28日に告示され、2018年5月9日に投開票となった。

マハティールは当時の野党連合である「希望同盟 (PH)」の支持を得て首相候補としてPPBMから出馬した。

高齢ではあったが、マレーシアを現在の姿に導いた功績は大きく依然として国民からの信頼は厚かった。そして、ナジブ前首相の汚職疑惑を追及し続ける言動が、多くの国民から支持を得た。

投票日前日の5月8日の世論調査機関の予測では、ナジブ前首相のUMNOを中心とした与党連合「国民戦線 (BN)」(\*)が獲得議席数で優位だった。

しかしながら、5月9日の投票を終え大勢が判明した。野党連合「希望同盟 (PH)」に属する「人民正義党 (PKR)」の大量議席数獲得などで野党の勝利が決まった。PKRは、マハティールが今回の選挙でパートナーして選んだアンワルを支持する政党だ。

**「国民戦線」(BN)**

UMNOなどが中心となって構成した政党連合。長期にわたって“与党連合”としての地位を維持してきたが、2018年総選挙で敗れ、野党連合となった。

\*: 5月8日は水曜日で、投票日が週末以外に設定されたのは異例のこと。投票率が高くなると不利になると判断した当時の与党連合が投票率を低く抑えたかかったのではないかと言われた。その後、多くの批判を受けたことで投票日は国民の休日にする事となった。

**2018年5月9日の総選挙結果 与野党陣営と獲得議席数**

(旧) 野党連合「希望同盟 (PH)」  
(合計議席数 113)

人民正義党 (PKR)	48
民主行動党 (DAP)	42
マレーシア統一プロGRESS党 (PPBM)	12
国民信託党 (AMANAH)	11

(旧) 与党連合「国民戦線 (BN)」  
(合計議席数 79)

統一マレー国民組織 (UMNO)	他	79
------------------	---	----

全マレーシア・イスマ党 (PAS)	18
サバ伝統党 (WARISAN)	8
その他	4

\*: マレーシアの首相は下院の最大政党の党首が選ばれ、マレーシアの国王 (アゴン) により任命される。

**3. マハティールとアンワルの奇異な関係を振り返る**

**(1) アンワルをもう一度パートナーとして**

ナジブ政権打倒を目的に首相候補として出馬を決めた2018年総選挙でパートナーとして選んだのがアンワル (Anwar bin Ibrahim) だった。

マハティールが第4代首相だった時代に閣僚として要職を務め、マハティールの後継者としてみられていたアンワルだったが、1998年にマハティールから解任されている。

こうした複雑な関係にある仲でありながら、今回の選挙では打倒ナジブという共通の目標を持つことから手を結んだ。



## (2) アンワルとの出会い

マハティールのアンワル・イブラヒム (Anwar bin Ibrahim) との出会いは 1983 年 4 月の総選挙前だった。

UMNO の誘いで、当時「マレーシア・イスラーム青年運動 (ABIM : Angkatan Belia Islam Malaysia)」(\*)の指導者であったアンワルが UMNO に参加をした。

UMNO としてはマレーシアにおけるイスラーム復興運動で大きな影響力をもつアンワルを党内に引き込むことで、最終的には ABIM の弱体化に成功したと言われる。

\*:「マレーシア・イスラーム青年運動 (ABIM : Angkatan Belia Islam Malaysia)」は 1971 年 8 月 6 日に結成。イスラーム教徒の学生集団であるマレーシア・イスラーム学生全国協会 (マレー語版) (PKPIM) が中心となって組織され、貧困層に対するチャリティー活動や教育プログラムを通じてイスラームの推進をはかっていた。

## (3) アンワルとの蜜月時代そして絶縁

マハティール政権時代にアンワルは教育相に就任、そして財務相への転任と順調に出世し、1992 年には副首相を兼務するなど、マハティール氏の後継者としての地盤を固めていった。

しかしながら、1998 年 9 月 UMNO 内部の権力闘争が本格化し、通貨危機対応などでアンワル財務相はマハティール首相と対立した関係になっていた。そして 9 月 2 日、アンワルは副首相を罷免された。その翌日には UMNO を追放された。

1998 年 9 月 20 日、アンワルはクアラルンプールで 10 万人近い人を集めた。そして集会の後マハティール首相退陣を要求する行進を行った。この種の行進はマレーシアでは珍しい。その晩、アンワルの自宅はマレーシア警察の特殊部隊により襲撃され数時間後には治安維持法違反で逮捕された。

## (4) “同性愛者”容疑に翻弄されたアンワル

アンワルを封じ込めたのは治安維持法違反容疑だけではなく、1998 年に出版された一冊の本『アンワルが首相になれない 50 の理由』に、アンワルの同性愛疑惑に関する記述があった。

この年の 8 月には事実に基づいていない悪意のある出版物であるとして著者は逮捕された。

事実に基づいていない記述があるとされながらも、1998 年 9 月 14 日にはアンワルの支持者 2 人が同性愛の容疑で逮捕された。そしてわずか 5 日後には判決がでて、彼らはアンワルと同性愛の性行為を行ったとして処分された。

1998 年 9 月 29 日、法廷に立ったアンワルは無罪を主張したが、1999 年 4 月 14 日に汚職の罪で懲役 6 年の有罪判決、そして 2000 年 8 月 8 日には同性愛の罪で懲役 9 年が言い渡された。(\*)

それから数年後の 2004 年 9 月 2 日、マレーシアの最高裁判所がアンワルの同性愛の罪状を覆す判決を出し、アンワルは釈放された。

\*:マレーシアはイスラム教を国教としているイスラム教国で、同性愛は違法となる。

\*: 1998 年 9 月にアンワル氏は治安維持法違反で逮捕された。アンワル支持派はアンワルの妻ワン・アジザ (Wan Azizah Wan Ismail) を党首に立て「国民正義党 (PKR)」の結成に動いた。

## (5) アンワル政治活動再開、ところがまた

2008 年 4 月 15 日、晴れて政治活動が可能な身となったアンワルだったが、7 月 16 日に再び同性愛容疑で逮捕された。翌日には保釈されたが、これは政治的嫌がらせだとアンワルは主張した。

そして8月26日に行われたペナンの補欠選挙でアンワルは当選し、政界に復帰した。

2012年1月9日、マレーシア高等裁判所は、アンワルの同性愛容疑に無罪を言い渡した。しかしながらその2年後の2014年3月7日、マレーシアの上訴裁判所は一審の無罪判決を覆し、禁錮5年の有罪判決を下した。そして、2015年2月10日、マレーシア連邦裁判所は上告を退け、有罪判決が確定しセランゴール州スンガイブロー刑務所に収監された。

アンワルは、「政治的な意図に基づくでっち上げだ」と判決後に声明を発表していたが、マレーシア政府は「司法は独立しており、判決を尊重すべきだ」として受け付けなかった。

そして、その後首相に返り咲いたマハティールが国王に恩赦を求めて釈放される2018年5月16日までアンワルの服役は続いた。

## (6) アンワルの力を借りて得た首相の座

ナジブ政権打倒を目的に首相候補として出馬を決めたマハティールは2018年総選挙にのぞむにあたり、アンワルをパートナーとして選んだ。

マハティールが首相時代に、副首相にしておきながら、その後更迭、UMNOから追放したという複雑な関係がある。

しかしながら、汚職疑惑まみれの政治に対して強い嫌悪感を持ち、現政権を倒したいという思いは同じ同志であった。

総選挙の時期はまだ服役中だったため、アンワルに代わり「人民正義党(PKR)」の党首として支持者をまとめる妻ワン・アジザ(Wan Azizah Wan Ismail)を副首相候補に据えてマハティールは総選挙に臨んだ。

アンワル不在の選挙だったがアンワルの支持者は多く、支持政党PKRが大量議席数を獲得しマハティールは選挙に勝った。UMNO以外が政権を握る初めての政権交代劇だった。

マハティールは92歳で首相に再就任した。首相に返り咲いた翌日マハティールアンワルの恩赦を国王に申請した。

恩赦を受けたアンワルはその後、2018年10月13日の下院議員補選で大量得票し政界に復帰した。そして11月18日には、正式にPKRの総裁に就任した。

## 4. マハティール政権内部の不協和音

### (1) 曖昧にし続けたアンワルへの禅譲時期

2018年の選挙時から、早期にアンワルに首相の座を禅譲することを表明していた。その後、2020年5月までの禅譲が公言されていたが、2020年2月になって11月のAPEC首脳会議後になると言い出した。

アンワルを支持するPKR内には、当初の約束通り2020年5月までの禅譲を求める声も根強かった。

それでも、アンワルが11月のAPEC後の禅譲を容認したのは、マハティール氏の意味を尊重するのと引き換えに、新たな禅譲時期の明示を

迫る目的があった。

2020年2月21日の与党連合の最高幹部会合でアンワルへの禅譲時期について話し合われた。この会合で時期を明確にしたかったアンワルだったが、時期についてはマハティール首相に一任することと決まった。

アンワルが禅譲時期の明確化を迫った背景には、その時期の政治的立場が苦しいこともあった。マレーシアの2大野党であるUMNOとPASからも、マハティール氏の次の総選挙までの首相続投を支持する声が出はじめていた。

アンワルはマハティールに強引に禅譲を迫れるほどの支持議員数を確保できておらず、政権交代前に交わした「約束」の正当性を訴え続けるしかなかった。マハティールはこうした構図を見透かしており、野党の続投要請をアンワル側への圧力としてうまく使っていた。

## (2) アンワル派と微妙な関係に

この時期、与党連合内ではマハティール勢力とアンワルへの早期首相禅譲を求める勢力との間の対立が激化していた。マハティール首相とアンワルとの関係も微妙になってきていた。

2020年2月21日の与党連合最高幹部会合でアンワルへの禅譲時期の判断がマハティール首相に一任されるとの結論がでたことを機に、アズミン・アリ(Azmin Ali)前経済相らが、野党の国民戦線(BN)などと協調する連立政権の組み替えに動いた。

アズミンはマハティール首相から重用されており、アンワルと敵対する関係にあった。この動きは実質的にはアンワル外しだった。

そして2月23日、ある野党幹部が記者団にこの連立のメドが立ちつつあると話したことで、事態が大きく動いた。

## (3) アンワルの反発そして国民の怒り

これら一連の動きによりマハティール首相の想定外の方向に事態が進むこととなった。

この野党と組みなおす連立組み替えの構想は2018年5月の総選挙で政権交代を求めて今の与党連合に投票した有権者の怒りに火をつけた。汚職事件で起訴されたナジブ元首相が属する「国民戦線(BN)」との連立はありえないものだった。多くの市民団体が有権者への裏切りだと反発した。

## (4) 賭けに出た首相辞任そして再選に向けた動き

2020年2月24日、マハティール首相はアブドラ国王に辞表を提出し受理された。

与党連合内の対立の深刻化という事態の收拾をはかるための辞任だった。辞任してみせることで、与党連合内の自らの存在を再認識させようとした。その判断が正しかったかどうかは今になってもわからない。

そして国王は、次の首相が決まるまでの間マハティールが暫定首相として職務を続けることと決めた。

マハティール首相が辞表を提出した2月24日、時を同じくしてマハ

ティールが率いてきた PPBM が与党連合から離脱を発表した。

議会制民主主義のマレーシアでは、下院議員の過半数の支持を得た議員が首相に就任するが、PPBM の離脱により与党連合単独では過半数の議席数に達しなくなった。

2020年2月24日現在の与野党勢力分布 (数字は保有議席数)

(新) 与党連合・希望同盟 (PH)  
(合計議席数 129)

人民正義党 (PKR)	50
民主行動党 (DAP)	42
マレーシア統一プロGRESS党 (PPBM)	26
国民信託党 (AMANAH)	11

(新) 野党連合・国民戦線 (BN)  
(合計議席数 41)

統一マレー国民組織 (UMNO)	他	41
------------------	---	----

全マレーシア・イスラム党 (PAS)	18
サバ伝統党 (WARISAN)	8
その他	10



PPBM は 2 月 24 日に与党連合から離脱  
アズミン・アリは野党連合との連携を模索

アブドラ国王は 2 月 25 日、全下院議員と面談して後任の首相に関する意見を直接聴取すると発表した。マレーシア憲法は「国王が下院議員の過半数の信任を得ていると判断した議員を首相に任命する」と定めている。国王の面談でマハティールの支持が多ければ、国王は同氏を改めて首相に任命することになる。

地域政党も含めてマハティールを支持する動きが広がっており、同氏が首相に復帰する流れが強まりつつあった。(\*)

マハティールの属する PPBM はもちろんのこと、地域政党の「サバ伝統党 (WARISAN)」(\*)なども、マハティールの首相復帰を支持すると表明していた。

一方、暫定首相を務めるマハティールが国王に下院の解散を求め、総選挙に持ち込むこともできた。

\*: 政治の機能不全がもたらす影響が深刻なため、マハティールの続投を求める声は多かった。新型コロナウイルスの感染拡大により打撃を受けた経済への対策や、8 年 2 ヶ月ぶりの安値を記録した株式市場、通貨リングも 2017 年 11 月以来の安値圏にあるなど、対策執行に支障がでることは避けたかった。また、大国中国としたたかに渡り合っていくためには経験豊富なマハティールが必要だった。

「サバ伝統党」(WARISAN)  
サバ州を基盤とする地域政党。

5. マハティールの誤算

(1) 予測しなかった側近の動きと国民の反応

これまで幾度となく修羅場を潜り抜けてきたマハティールだったが今回の首相辞任後の動きは誤算が多かったといえよう。

アンワルへの禅譲時期の明確化を先延ばしにすることに成功したマハティールだったが、その背後で予想しなかった動きが始まった。

マハティール支持派のアズミン・アリ前経済相らが、これを機にアンワルを排除した連立組み替えを行おうと公然と動いた。そしてその動きがある野党幹部の発言で 2 月 23 日に公になった。

このことでアンワル及びアンワル支持勢力との対立が決定的なもの



となった。その結果これまで協調してきた与党4党の瓦解は時間の問題となった。

この連立組み替えの動きに対して国民も猛反発した。そもそも汚職疑惑のある元首相や元閣僚たち政権交代のために前回の総選挙で投票した。それなのに、また彼らの属する政党と組むなどということは許せなかった。

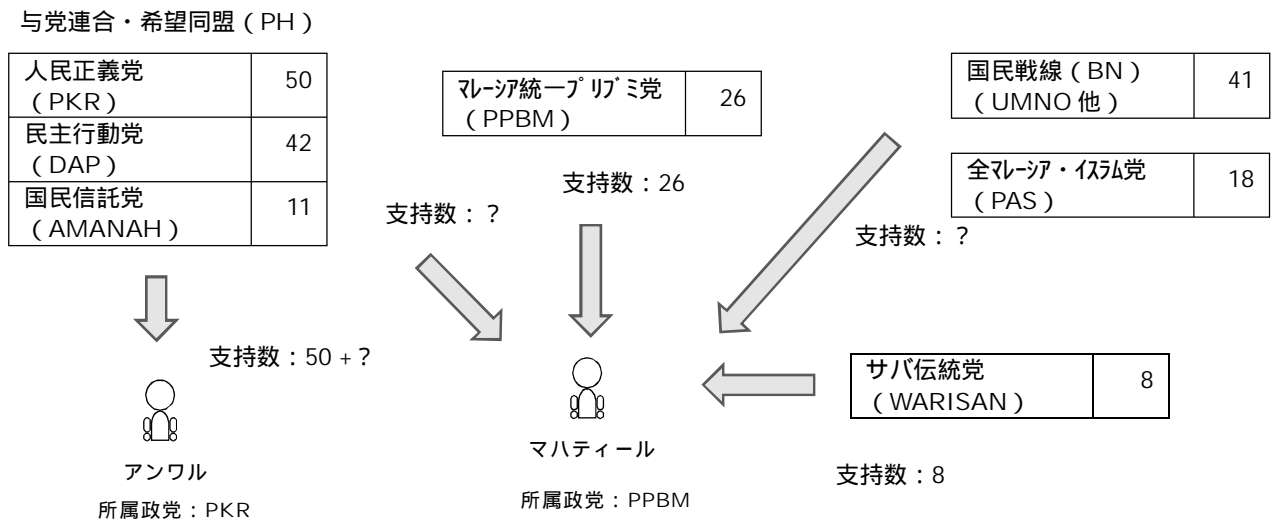
**(2) 首相辞任による連帯感再構築が予期せぬ方向へ**

マハティール首相は2月24日、この状況を打開するために辞任を表明した。政治経験豊富な自分の存在なくては与党政権の存続はないことを気付かせ、辞任を翻意させようとする動きで再び与党連合の結束を強めようと考えた。マハティールの首相復帰支持の声があがりマハティールの策略は成功したかに見えた。

この時、マハティールの支持母体 PPBM が与党連合から離脱した。議長のマハティールの意思なのか、総裁のムヒディン・ヤシンの意思なのか、それとも他の何かの力関係からなのかは不明だ。

PPBM が与党連合離脱を発表した翌日、野党連合は『華人系政党の『民主行動党 (DAP)』が与党連合に加わっている限り、マハティールを支持できない』とし、解散・総選挙を求めている。PPBM が野党連合の支持を取り付けるには与党連合を離れることが不可欠だったのかもしれない。

**マハティール首相辞任直後 (2月24日) の支持数分布 (推定)**



**(3) 裏目に出たテレビ演説**

マハティール暫定首相は辞任から2日後の2月26日、テレビで国民に向かって演説を行い、与野党からの支持を前提に首相を続投する意向を示した。

一方、与党連合はマハティールのテレビ演説直後にアンワルを次の首相候補とする方針を打ち出した。2月25日の与党連合最高幹部会合に招待したが、マハティールはそれを拒絶したことが理由だとしている。

マハティールの独裁政権化を警戒した与党連合が、次期首相候補とし

てマハティールではなくアンワルを選んだようだ。

与党連合はこれまで少なくとも公式にはマハティールを支持する立場をとっていたが、すでにマハティール率いる PPBM も与党連合を離脱しており、マハティールと与党連合との亀裂が決定的になった。

また、この時のテレビ演説で標的にされた野党連合内でもマハティールに対する反発が強まり、マハティールは孤立することとなった。

**(4) 自ら着く多政党 PPBM の寝返り**

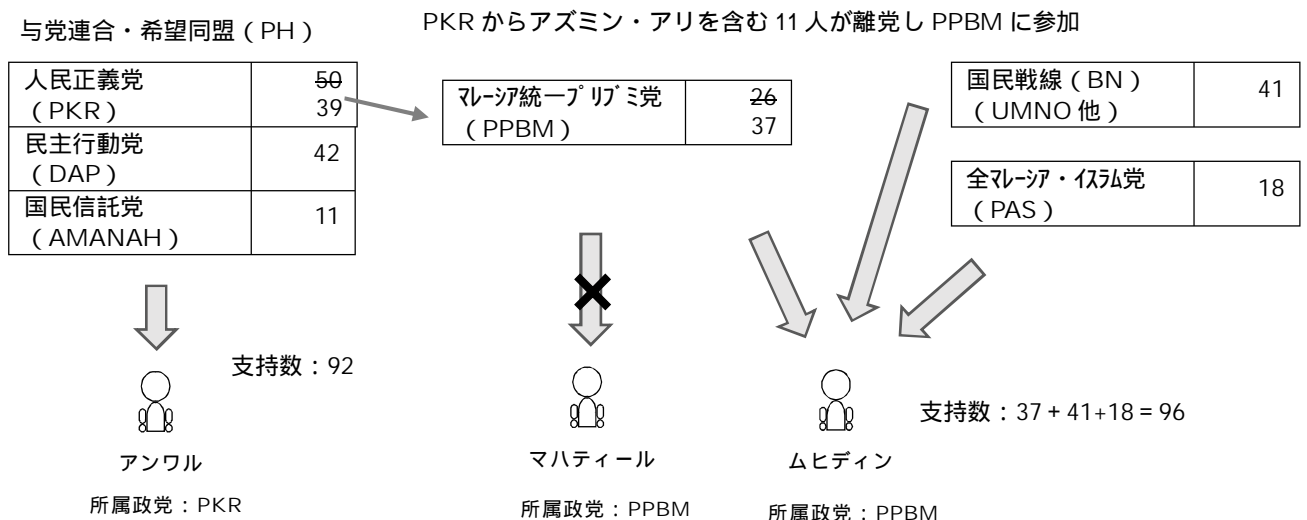
PPBM は 2 月 28 日、首相候補として総裁のムヒディンを支持することを決定した。野党連合との連携による多数派工作のためにマハティールではなく、ムヒディンを首相候補とすることを選んだとも見える。

これまでマハティールが議長、ムヒディンが総裁として一枚岩だった PPBM も、ここにきてゆらぎがでてきた。

PPBM がアンワル支持の与党陣営に対抗するために必要な策だったが、野党批判をしているマハティールとしてはのめる話ではなかった。

野党連合はムヒディンの首相候補を支持したため、マハティールは所属政党の PPBM とも決別せざるを得なくなった。

**2 月 28 日時点の支持数分布 (推定)**



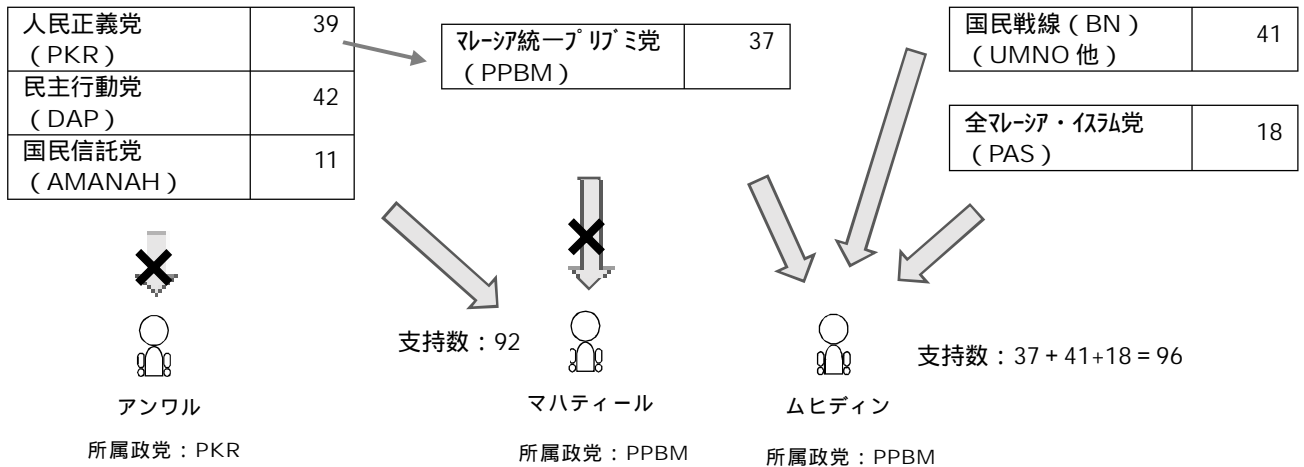
**(5) すでに遅し、新首相決定**

この翌日の 2 月 29 日朝、マハティールは再び与党連合に合流し支持を取り付けたと言っている。しかしながら、すでに手遅れだった。

その日の夜にはアブドラ国王により、ムヒディンが下院議員の過半数の支持を得たとして新首相に任命する旨の発表があった。

## 2月29日朝、マハティールが与党連合の支持を得たとする時点の支持数分布（推定）

与党連合・希望同盟（PH）



マハティールは冷徹に現実を分析し、時には敵対する相手とも組むしたたかさを持つ。それが政界で長く生き残ってこられた理由のひとつであろう。2018年総選挙で、政権交代を実現させることができたというのも、それまで敵対してきたアンワルと組むというしたたかさがあったからではないだろうか。

しかしながら、今回ばかりはそうはいかなかった。首相辞任という賭けから始まった1週間ほどの間に、状況はめまぐるしく変化した。そして、マレーシア史上初の政権交代をなしとげた4つの党の連帯は見事に瓦解した。

首相辞任を表明した後も、首相復帰に執念を見せていたマハティールにとって、これまで腹心だったムヒディン副首相の新首相就任は皮肉な結果だった。

## 6. 新首相が決定してもなお

### (1) マハティールのムヒディン首相批判とムヒディンの反論

ムヒディンは3月1日の首相就任式を終え正式に第8代首相となった。すでに勝負は決したと思われたがマハティールはあきらめなかった。首相就任直後のムヒディンを「政治信条よりも政略を優先させた」と批判した。

翌3月2日、ムヒディン新首相は国民に向けてテレビ演説を行った。マハティール前首相に離反し野党連合と手を組んだ裏切り者という批判に反論し、国民に支持を訴えた。そして、国民の不満の源泉となっている汚職疑惑のある人物の閣僚任命は行わないことも約束した。

ムヒディンはこう言った「(マハティールとアンワルの)2人の首相候補がともに下院議員の過半数の支持を得られないのを見て、政治の混迷を止めるために何ができるかを熟考した」。その結果選んだのが、例え野党と組んでも現PPBM政権を維持することだったのだろう。

## (2) ムヒディン政権の運営

ムヒディン政権は、ムヒディンの所属する PPBM、野党連合の中心でナジブ元首相らが属する UMNO、そして第三極として力を持つイスラム主義を掲げる PAS などの集合体となった。いずれもマレー系の政党で、前政権に比べて民族色が濃くなる。

首相就任直後の 3 月 4 日には、当初 3 月 9 日に予定されていた連邦議会下院の招集を 5 月 18 日に延期すると決定した。マハティールからの不信任案提出を遅らせることが狙いだと思われた。

そして、3 月 9 日には新内閣の閣僚名簿を発表した。約束どおり汚職疑惑を抱えるナジブ元首相らの入閣は見送った。

## (3) 不安定な政権維持

PPBM は UMNO を中心とした野党連合や PAS と組むことによってムヒディンを首相にすることができた。

国王から過半数の支持を得ていると判断され首相となったムヒディンであったが、実際のところ支持議員数の数は未知数だった。よくても過半数をわずかに上回るに過ぎないと思われた。そのため、不信任案が可決される可能性はあった。

## (4) ムヒディン首相不信任案の提出

マハティール前首相は 2020 年 5 月 8 日までに、アリフ・ユソフ下院議長にムヒディン首相の不信任決議案の提出意向を正式に伝えた承を得ていた。

そして 5 月 18 日には、連邦議会下院が開催されたが、マハティールによる首相不信任決議案は審議されず短時間で閉会された。「新型コロナウイルスを完全に封じ込められていないため」とその理由を説明したが、首相不信任決議案の審議を避けたことは明白であった。

## 7. 自力での戦いは断念し後を託す

### (1) 首相復帰は断念

自分が首相に再度返り咲くことを求めていたマハティールだったが、2020 年 6 月 27 日首相復帰を目指す考えを取り下げた。そして自身に代わってサバ州首相のシャフィー・アブダル (Shafie Apdal) を首相候補として推し、ムヒディン政権の早期倒閣を目指すとした。

シャフィー・アブダルは地域政党「サバ伝統党 (WARISAN)」の党首。WARISAN は 2018 年総選挙で 8 議席を獲得しており、マハティール前首相の復帰を支持していた。

### (2) マハティールの主張に疑念

マハティールは、シャフィーを首相候補とする件については 6 月 25 日に WARISAN、AMANAH、DAP などの 2018 年総選挙時の同盟政党の幹部と非公式会議を行って決定したと主張しているが、AMANAH のモハマド・サブ党首 (前国防相) と DAP のリム・グアンエン書記長 (前財相) はその日のうちに、マハティール氏の発表は事実と異なるとする声明を発表した。

#### 〔政権交代を狙う政党連合〕

「国民審議党」(PKR)  
「民主行動党」(DAP)  
「国民信託党」(AMANAH)

注：2018 年総選挙で連合に入っていた「マレーシア統一プリブミ党」(PPBM) はマハティール前首相辞任時に離脱している。



マハティールやマハティールの所属政党の PPBM が離脱した希望同盟 (PH) にはアンワルを党首とする PKR が存在する。そして、PKR はアンワル党首を次期首相候補として推している。

### (3) 今度はアンワルからマハティールへ

PKR 党首として次期首相の座を狙うアンワルが今度はマハティールに誘いをかけた。2020年6月25日、シンガポールの「チャンネル・ニュース・アジア」のインタビューで、マハティールを将来的に上級相や内閣顧問として迎えることを提案した。

しかしながらマハティールはこの提案に対して「自分の経験から言って、これまでの首相は誰一人として顧問の意見を聞いたためしが無い」として提案を拒否した。

### (4) 国民もマハティール離れか

マハティール前首相は、シャフィーアを次期首相候補とするだけでなく、アンワルを第1副首相候補、そしてマハティールの三男であるムクリズ・マハティール(前クダ州首相)を第2副首相候補として推した。

しかしながら、この提案は単にマハティールがアンワルの首相就任を阻止することで、引き続き政治的権力を持ち続けたいに過ぎないという見方が多いようだ。

### (5) 国民もマハティール離れか

今年10月にも解散総選挙が実施されるのではないかと憶測もある。しかしながら、ムヒディン首相には積極的に解散総選挙をやりたい理由はないと思われる。それどころか、UMNO や PAS との協力体制がうまくいかなければ選挙を戦い抜けないという事情もある。

しかしながら、総選挙を通して国民の声を反映せずに首相に就任した現ムヒディン政権は不安定で、いずれは総選挙が必要になるだろう。そのとき、アンワルは、そしてマハティールは、どう選挙を戦っていくだろうか。

マレーシアの発展に大きく貢献したマハティール元首相が90歳を超えてもう一度マレーシアを導こうとして立ちあがった。同じ時代に政治家として手腕をふるったシンガポールのリー・クアンユー元首相はもういない。リー・クアンユーは91歳で亡くなった。

マハティールがもう一度首相の座を手に入れようと選挙に臨んだのは92歳。リー・クアンユーより長く生きることができたときだった。まるで、これから先の人生はもらいものだからもう一度国のために使おうと考えたのではないだろうか。

一度は首相に返り咲きながら勝負をかけた辞任という勝負で敗れてしまった。それでも2018年総選挙で初めての政権交代を実現した功績は大きい。国民の投票により権威主義的な政権を倒すことができた事実はまさに「新しいマレーシア (Malaysia Baru / New Malaysia)」の始まりの象徴だ。残された時間はそう長くはないかもしれない。

マハティールは今年95歳。無情にも時は流れる。残された時間はもう長くない。

2020年7月6日  
株式会社 エムニド  
仁藤 誠人

## 【付録】 【2020年激動の10日間 時系列表】

- 2月21日
- ・ 与党連合の最高幹部会合でアンワルへの首相禅譲時期はマハティール氏に一任と決定
  - ・ アンワル外しの好機とみた PPBM のアズミンが野党連合との連立政権の組み替えに動く
- 2月23日
- ・ 野党幹部が記者団に連立のメドが立ちつつあると話す。この話を耳にしたアンワルが反発
  - ・ アンワルがマハティールと直接会談
  - ・ 野党連合（前与党連合）との連立について、政権交代を求め投票した支持者たちから怒りの声
- 2月24日
- ・ 与党連合内部の連結力を再度高めるための方策としてマハティール首相は辞表を国王に提出
  - ・ 国王は辞表を受理し、次期首相が決まるまではマハティールを暫定首相とすることを決定
  - ・ マハティール率いる PPBM が与党連合から離脱すると発表。与党連合は過半数維持困難に
- 2月25日
- ・ この時点で野党連合はマハティール氏を支持できないと解散を求めた
  - ・ アブドラ国王は全下院議員と面談し首相後任について意見を直接聴取すると発表
  - ・ この日までに PPBM 及び WARISAN や地方政党の GPS はマハティールの首相復帰支持を表明
- 2月26日
- ・ マハティールがテレビで演説。与野党の政争を棚上げする「統一内閣」により首相続投の意向を表明。ムヒディンらの野党連合を加えた連立組み替え構想は受け入れられないとした。演説の中で UMNO を批判したことが野党連合との距離を広げることになる
  - ・ 与党連合はマハティールのテレビ演説直後にアンワルを首相候補とする方針を打ち出す
  - ・ アブドラ国王はこの日までに全下院議員の意見を聴取したが、首相就任のための過半数の支持を得ることはできなかった
- 2月27日
- ・ マハティールは午前中にアブドラ国王に面談。下院議員の投票によって首相を選ぶという国王の意向を確認
  - ・ マハティール暫定首相は3月2日に連邦議会下院を招集し、首相選出の投票を行うと発表
- 2月28日
- ・ 下院議長が、下院議員召集及び投票はルールに沿わないと反対。アブドラ国王が下院招集はなく下院議員による投票もないと表明
  - ・ アブドラ国王は、与野党の党首の意見を改めて聴取し、意見の集約を目指す
  - ・ PPBM はムヒディンを首相候補とする方針を決定。PPBM はアンワルの政党 PKR を離党したアズミン・アリ前経済相らも加わったため勢力を増した
- 2月29日
- ・ 与党連合は前日までのアンワル支持を一転、マハティール支持を発表
  - ・ マハティールは同日朝、与党連合の幹部と会い下院議員の過半数の支持を確信。国王に首相復帰の意思を伝えたと発表
  - ・ アブドラ国王が、全ての与野党の党首の意向を聴取した結果、ムヒディン氏が過半数の信任を得ていると判断し次期首相に任命したと発表
  - ・ マハティール氏は同日夜、自らが下院議員の過半数である 114 議員の支持を得ていると主張する声明を発表
- 3月1日
- ・ ムヒディンが宣誓式を経て第8代首相に就任